神道文化学部

この学部でしか学べないことがある

京都府八坂神社　奉納舞楽「五常楽」　制作　明木春蚕(号)　神道文化学部在学生

KOKUGAKUIN UNIVERSITY 140th 1882－2022

もっと日本を。もっと世界へ。

KOKUGAKUIN Univ.

國學院大學

一緒に学ぼう！

鈴木 聡子

神道文化学部　助教

ゼミ生
緒田 雅人さん
（4年生）

鈴木先生はこんな先生！

学生にしっかりと寄り添った指導をしてくださる先生です。ゼミでは、私の研究テーマに合う参考文献などを紹介していただいたり、的確なアドバイスで研究の道標を示していただきました。

私は神道文化学部になる前の文学部神道学科の卒業生です。学部で学んだあと、大学院で研究を続け、平成31年、神道文化学部の教員として着任しました。

実家は千葉県市川市内の累代社家で、私は権禰宜として奉務しています。小さい頃から境内で遊び回って育ち、そうした環境のなかで、自然に神道について深く知りたいと思い、國學院大學に進学しました。

大学での授業、そしてなにより先生方が素晴らしく、充実した学生生活を送ることができました。岡田荘司先生の御指導のもと、各地の神社祭祀や祭礼について学び、そのような中で神社の年中行事を研究テーマとするようになりました。

一方、地元で神職としてご奉仕を始めるにあたっては、はたして女子神職を受け入れてくれるか否かの不安もありましたが、幸いにして、幼い頃からの私を知る氏子さんたちは、むしろ楽しみにしてくれていて、しっかりと支えてくれました。

女子神職は、神社界ではまだ浸透していないという印象もあるかも知れませんが、今の女子学生を見ていて、情熱と誠実さがあれば、何も心配はないと感じています。

神道の研究者・教員であり、神職でもある私の立場から、将来、氏子さんなどいろいろな方に信頼される神職となれるよう、学生の皆さんと一緒に研鑽を深めていきたいものと願っています。

緒田 雅人 さん

神道文化学部４年 <フレックスA・夜間主>

一部上場企業内定

緒田さんはこんなゼミ生！ **鈴木 聡子** 助教

コロナ禍で調査・研究する環境に制約があり、苦しい２年間であったと思います。自身の研究テーマについて、どのように調べるのが最善か熟考し、ひたむきに頑張っている姿が、とても印象的でした。

実家は代々神職の家系で、小さい頃から神社を身近に感じていました。進学のきっかけは、兄が神道文化学部を卒業して、地元の神社に奉職したことです。

「せっかく社家として生まれたのだから、自分もしっかりと神道を学びたい…」そんな思いで、神道文化学部への入学を決めました。

入学してから２年間は、「神社実習生」として都内の神社に住み込みました。昼間は神社でご奉仕、夕方から大学で授業を受けるという毎日です。

実習生としての学生生活は、大変な事も多かったのですが、ご社頭に常駐することで、地域の方々・参拝者の方々と、深くお付き合いする事ができました。神職を目指す者として、実に得がたい経験を積むことができたと思います。

３年次に進み、卒業後の進路を考え始めました。実家が奉仕する神社は決して大きなお宮ではありません。お宮だけで生計を立てる事は難しいので、どこか大きい神社でご奉仕しながら実家を手伝うか、あるいは一般企業に就職して「兼業神職」としてご奉仕するのか、そのいずれかの二択でした。

かなり考え込みましたが、決め手となったのはやはり兄の存在でした。神社の後継者としては兄が居たので、私は土日祝日などの休暇を取りやすい一般企業に就職し、神社が忙しい休日に兄をサポートしていこうと考えました。こうして一般企業への就職という進路が私の目標になったのです。

４年次、実際に就職活動が始まりました。なにせ神道文化学部は、日本でただひとつのユニークな学部です。面接官から「神道文化学部って何を学ぶ学部なの？」というような興味津々のお尋ねをいただきました。大勢の志望者の中にあって、この学部出身者ならではの「差別化」を、自ずから図ることができたのです。

神道文化学部は、神仕えする者の「まごころ」を培う学部です。就職活動において、自らの「まごころ」と「誠実さ」を、ごく自然にアピールすることができました。おかげさまで無事に第一志望の企業から内定をいただくことができたのです。

卒業後は、社会人としての生活が待っています。神職として、人として、大きく成長できるよう、弛まぬ研鑽を重ねていきたいものと願っています。

神道の学び、神社実習生としての経験が、就職活動で活きました

國學院大學の奨学金制度

1年次は全員支給

神道・宗教 特別選考新入生対象 返済不要

神職子女奨学金 …[1年次生]自宅外通学者40万円／自宅通学者20万円支給(全員)
…[2年次以上]自宅外・自宅通学者ともに10万円支給(学業成績の上位20名以内)

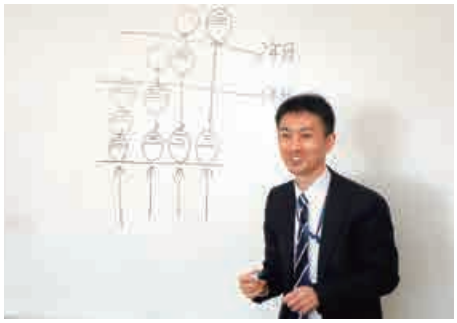
詳しくは本学ホームページ「入試情報に関するお知らせ」でご案内します。 http://www.kokugakuin.ac.jp/admission/nyugaku0300166.html

夜間主学生対象 返済不要

國學院大學フレックス特別給付奨学金……400,000円

神社界からの奨学金

神社本庁育英奨学金……30万円支給(２年生以上) 返済不要 ※条件あり
伏見稲荷大社奨学金……24万円支給 返済不要 ※条件あり
全国敬神婦人連合会育英奨学金……15万円支給(女子学生のみ、2年生以上) 返済不要 ※募集されない場合があります



「共生の時代」を生き抜くための知恵と価値を探そう

藤本 頼生

神道文化学部 教授

藤本先生はこんな先生！ 黒田 裕香さん

藤本先生は、ご専門の神道教化はもちろんのこと、様々な領域をカバーする幅広い知見をお持の先生です。私の「こんなことをしてみたい」というぼんやりとした興味に対して、それを先生の視点にぐっと引き寄せて、具体的な事例に即したアプローチを示唆してくださいました。

神道は、特別な宗教生活や特定の教義に基づいた倫理的な生活を実践することによって、個人の心が救われるというものではありません。

この日本という地域のなかにおいて、お互いの生活を理解しながら、人々がともに平穏無事に、創造的に暮らしていこうという見えざる意識のもとに、神々を祀ることで、さまざまな文化的な意味付けと多面的な価値を見い出し、社会をともに生きてゆくための方向性を与えてくれるのが、神道の宗教的役割の一つです。

そして、地域の人々の意識のつながりが具体的な儀礼として表現されているのが、神社の祭りであり、鎮守の森と称される神社の場としての特性です。地域ごとに多様な形で斎行されてきた神社の祭りや地域の民俗・習俗には、人々のつながりや、明日を生きるための活力の源泉をみることができます。

それは、ＳＤＧｓに象徴されるこれからの持続可能な共生社会を生き抜くための日本人の知恵でもあり、古来より築き上げられてきたわが国の宗教信仰のあり方の一つです。

神社の組織や活動に際して起こる種々の問題を調べ、考えることは、地域に所在する人々と神社との関係性や、多くの人々を束ねる祭りのあり方、日本人にとって「神(カミ)」とは何かという問題を考えることでもあり、神社の社会的、公共的な性格を考えることにもつながります。

当該の問題へのアプローチや研究・調査を手助けするのも本学部の教員の役割の一つです。

日本人が長年にわたって考え、作り上げてきたモノと心のカタチである神道文化を、ぜひ一緒に学んでいきましょう！

黒田 裕香さん

神道文化学部４年 ＜フレックスB・昼間主＞
神社奉職内定

黒田さんはこんなゼミ生！ **藤本 頼生** 教授

黒田さんは、前期の演習で発表した際の私のアドバイスに対して、単に論文などの文献の探索にとどまらず、コロナ禍が落ち着いたわずかな時期を見計らって緻密な調査計画を立て、熱心にフィールドワークを行っていました。先学の研究を参考にしつつも、自身の目で見ることを重視し、謙虚に真実を探究しようとしていたゼミ生であったと思います。

私は一般家庭の出身者です。社家の子弟ではありません。しかも高校までは理系コースでした。神道については、ごく一般的な知識しかなく、日本史や古文さえも必要最低限しか勉強していませんでした。

そんな私の転機は、高校時代、海外留学での気付きでした。
「生まれ育った母国の文化を学ぶことが、そのまま世界への扉を開くことに繋がるのだ…」
この思いにふさわしい学びの場を探し求めた結果として、神道文化学部への入学を決めたのです。

顧みれば、この４年間というもの、この学部でしか学び得ないことを幅広く知り、自分の興味を深く掘り下げてゆくことができました。３年次からの基幹演習では、初年学時「宗教学」の授業で憧れていた石井研士教授のゼミに入りました。本学図書館の膨大な蔵書を活用しながら、自分がいったい何を研究したいのか、そのためにどのようなアプローチが必要なのか、じっくりと考え抜くことができました。

４年次からは、藤本頼生教授のゼミに加わり、現場に飛び込むフィールドワークを通して、理論と実体験の擦り合わせを行いました。コロナ禍ではありましたが、自分の関心に没頭出来る本学ならではの学修環境は、とても有り難いものでした。

課外活動は、神楽舞サークルを選びました。幼い頃からクラシックバレエを続けてきた私は、「身体表現」という慣れ親しんだ入り口から、「和の作法」を体得しようと考えたのです。とりわけ私たちの代は、神道文化学部以外の他学部生が多い学年でした。全員参加の役職分担で皆が協力する仕組みを作り、定期のお稽古や交流会を通して、最後まで仲良く活動を続けることができました。

学生生活で最も忘れ難い思い出は、3年次の観月祭です。本学ならではの風物詩として引き継がれてきた観月祭でしたが、コロナ禍でその実施が危ぶまれました。YouTube配信という形の斎行が決まったのは、本番の僅かひと月前でした。関係者に一人でも感染者が出たら即中止、という厳しい制約下、観月祭は無事成功しました。すべては私たち学生を温かく見守ってくださったサポーターの方々のご配慮の賜物です。只々深く感謝しております。

この４月から、久しく助勤でお世話になっていたお宮へ奉職致します。常に自らを謙虚に顧みながら、一日、また一日と努めて参りたいと願っています。

母国を知る学びが、世界への扉を開きました

困難に寄り添い、たちあがるための宗教文化をともに学ぼう！

黒﨑 浩行

神道文化学部　教授

黒﨑先生はこんな先生！

ゼミ生
吉田 雪乃さん

心優しく、穏やかな先生です。神道に限らず幅広い宗教文化の知識をお持ちなので、いつも適切なアドバイスをくださいます。

令和２年から世界中で猛威をふるっている新型コロナウイルス感染症は、私たちの日常生活を一変させてしまいました。平成23年の東日本大震災をはじめとする大規模な自然災害も、ほぼ毎年のように各地で起こっています。

こうした状況は、今を生きる私たちにとって非常に深刻な問題ですが、過去に例がなかったわけではありません。宗教文化に目を向けてみると、災禍に向きあう思想や実践が含まれていることに気づかされます。現代では、それがどのように息づいているのでしょうか。

神道文化学部には、全国各地から学生が集まってきますが、地域によっては、過疎化・少子高齢化に起因するさまざまな課題を抱えており、地域に根ざした神社や祭りに、その解決のヒントがないかと探っている学生もいます。

このような問いに答えるための研究方法・アプローチはさまざまに考えられますが、神道文化学部での幅広い学びは、何かしら役立てられるのではないかと思います。

私自身は、東日本大震災での宗教者の支援活動や、被災後の復興過程で神社や祭りの存在が地域のレジリエンス（復元力、回復力）に果たす役割を、現地調査・インタビューなどにより探ってきました。

そうした現代社会へのアプローチ以外にも、考古学や古代神道史、近代の神道と福祉の歴史、比較宗教思想史など、さまざまな分野が関連してくることが、神道文化学部のカリキュラム全体を通じてわかることになるでしょう。

みなさんが、この困難な時代をともに生きるための手がかりとなるような「学びの輪」に飛びこんでくることを、心から期待しています。

吉田 雪乃さん

神道文化学部４年 ＜フレックスB・昼間主＞

一部上場企業内定

吉田さんはこんなゼミ生！ **黒﨑 浩行** 助教

吉田さんの研究は、現代日本の多文化状況にフェアなまなざしを注ぐものでした。
吉田さんならではの真摯な姿勢を活かし、社会人として活躍することを期待しています。

私は、社家出身ではありません。神道文化学部のことはテレビで神社の特集番組を見ていて知りました。当時高校生だった私は、進路を考える中で、日本や世界の宗教文化について学びたいと考えていました。すぐに学部のことを調べ、宗教文化について幅広く学ぶことが出来るカリキュラムに魅力を感じ、進学を決めました。

神道文化学部では社家出身でご奉仕の道を志す友人も多いのですが、居心地の悪い思いをしたことは全然ありません。入学時のアイスブレイクをきっかけに知り合った友人たちと、日々の授業を通して助け合いながら、神道をはじめとした幅広い宗教文化の知識を身につけることができました。

神職課程は履修していませんでしたが、厳しい実習に対して努力している友人の姿に、いつも勇気をもらっていました。私自身も、学部の授業に加え、教職課程やビッグバンドジャズサークルでの活動、アルバイトの両立に懸命に取り組みました。

３年次からの演習では、イスラム教のハラール食について研究することを決め、調査を進めました。

このテーマを選んだきっかけは、飲食店でのアルバイトで、ムスリムのお客様を接客したことでした。調査研究を通して、不自由な生活を送る人々のことを考えるうちに、「多様な人たちとコミュニケーションを取り合う「これからの暮らし」のために、何か役立つ仕事をしたい」と思うようになり、一般企業への就職を目指すことに決めました。

就職活動の面接では、必ずと言っていいほど、学部名に対して興味が示され、何を学んでいるのか、どんな研究をしているのか、等々の質問を受けました。他にはないユニークな学部だからこそ、自分がどんな思いからこの学部に入り、何を学び、何を身につけたのかを、ひとつひとつ具体的に説明することができました。

顧みれば、教職課程やサークル活動で、他学部の学生とも多く接点があったことで、様々なタイプの学生と情報交換を行っていました。こうした経験も踏まえ、神道文化学部と他学部の違い、そのユニークな学びと経験について、より印象的なアピールができたように思います。

おかげさまで、第１志望であった憧れの企業から内定をいただくことができました。内定先は、生活全般の商品を扱い、人々の生活に役立つこと、環境に寄り添うことを大切にする企業です。

私は学部では異色の学生だったかもしれませんが、入学して本当によかったと思っています。自分の特色、強みが何なのか、そして自分が何をしたいのか、気づかせてくれた場所が、神道文化学部でした。後輩の皆さんも、自分の強みを知り、それを活かしていったい自分は何がしたいのか、ということを常に考えながら、自らの道を切り拓いてほしいと願っています。応援しています！

神道文化学部での経験と学びが、就職内定の決め手となりました。

コロナ禍で、「神祭りの大切さ」を身に沁みて感じました。

セレスト・ハルトさん

神道文化学部４年　＜フレックスB・昼間主＞

神社奉職内定

セレストさんはこんな学生！

武田 秀章教授

成人加冠式、観月祭、戦歿先輩學徒慰霊祭…。セレストさんは、わが学部の四季折々の行事を、いつも颯爽と司っていました。ご社頭での凛々しい活躍を、心から念じ上げて已みません。

幼い頃から「鎮守の杜」が遊び場でした。いつも神社を身近に感じながら生活してきたので、自然と神道に興味を抱くようになりました。大学進学に際しては、はっきりと神職を志し、本学への入学を決意したのです。

入学後は、神道系サークル「瑞玉會」に入り、祭式・雅楽・衣紋など、神職に必要な技術や知識の習得に励みました。また大学神殿の祭典では、先生方や職員の方々と共にご奉仕をさせていただきました。神殿の祭典では、日々の授業やサークルでの学びがそのまま活かせるだけでなく、奉仕者としての心構えなども、しっかりと培うことができました。思えば、実に有意義な四年間でした。

最も思い出深いのは、２年次の「観月祭」と「成人加冠式」です。

観月祭では、先輩方と共に「朝日舞」を舞わせていただきました。半年間の稽古を経て上がった舞台からの景観は、まことに素晴らしいものでした。舞い終わった後の達成感もまたひとしおでした。

成人加冠式では、男性神職の正装である衣冠を著け、大学神殿の大前で誓詞を奏上をするという大役を務めました。それはまさに一期一会の感動体験そのものでした。

年来のコロナ禍で、通学もままならない日々が続き、授業やサークル活動の制限はもちろん、神職課程必須の実習も、例年とは異なる形式を余儀なくされました。

けれども、このような人知の及ばない未曽有の事態だからこそ、「神祭りの大切さ」を、いよいよ身に沁みて実感させていただきました。

神職を志して全国から集まってきた仲間たちと、お互いに切磋琢磨した４年間は、一生涯の宝物です。先般、「皇城之鎮」として鎮座する都内の名社より内定を頂戴し、四月から神職として奉職することとなりました。大学での学びを活かし、神明奉仕に精進して参りたいものと念願しています。

令和５年度　総合型選抜、神道学専攻科、別科神道専修（Ⅰ・Ⅱ類）入試日程

入試制度	出願期間（消印有効）	試　験　日	合格発表	入学手続期間（消印有効）
神道・宗教特別選考（Ⅰ期） 「神社本庁包括下の神社」及び「神道系教団」の後継者を対象とした入試です。	9/21（水）～9/27（火）	1次：書類選考 2次：10/23（日）	1次：10/12（水） 2次：11/2（水）	11/2（水）～11/9（水）
神職養成機関（普通課程）特別選考	9/21（水）～9/27（火）	10/23（日）	11/2（水）	11/2（水）～11/9（水）
公募制自己推薦（AO型） 「神道文化学部でぜひとも神道文化・宗教文化を学びたい」という強い意欲を抱く志願者を選抜します。	10/3（月）～10/7（金）	1次：書類選考 2次：11/13（日）	1次：10/26（水） 2次：11/24（木）	11/24（木）～12/1（木）
神道学専攻科 ４年制大学を卒業した神職子女が、１年間で神職資格（明階検定合格、正階授与）取得を目指す課程です。	11/1（火）～11/4（金）	11/27（日）	12/7（水）	12/7（水）～12/14（水）
神道・宗教特別選考（Ⅱ期）［夜間主］ 「神社本庁包括下の神社」及び「神道系教団」の後継者を対象とした入試です。	2/6（月）～2/9（木）	1次：書類選考 2次：3/2（木）	1次：2/22（水） 2次：3/10（金）	3/10（金）～3/17（金）
別科神道専修Ⅰ類・Ⅱ類 高等学校の卒業者が、神職資格を目指す課程です。	2/6（月）～2/9（木）	3/2（木）	3/10（金）	3/10（金）～3/17（金）

※出願資格や「入学試験要項」など詳しい入試の情報については、國學院大學ホームページをご覧になるか、本学入学課（電話03-5466-0141）へお問い合わせください。志願される方はお早めに「入学試験要項」をご入手ください。

神道・宗教特別選考を志望する方々へ

本学では、（1）神社本庁所属神社の神職、またその家系の子女で、継承者となる方々もしくは、（2）神道系教団体所属者の子女で、将来、後継者となる方々を対象にして、「神道・宗教特別選考」という入試制度を設けています。詳細は國學院大學のホームページをご覧ください。

オープンキャンパス（渋谷キャンパス）　8月6日（土）／7日（日）／27日（土）

※学年は取材時のものです。